

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 2 0 0 8 年 7 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 7 月 3 1 日  
日 本 商 工 会 議 所

## < 結果のポイント >

7月の全産業合計の業況DIは 60.5となり、02年2月以来、6年ぶりのマイナス60台を記録した。中でも建設業の業況DIは 73.2と、98年7月以来の水準。仕入価格の増加や受注の減少などの影響により、特に厳しい状況となっている。

全産業合計の仕入単価DIは 59.4となり、1991年5月の同DI調査開始以来、最悪の水準を更新した先月からほぼ横ばい。また、仕入単価を除く、売上、採算、資金繰り、従業員DIは、前月から悪化した。

引き続き、原油・原材料価格の高騰や、食料品をはじめとする諸物価上昇の影響による、消費者の購買意欲の低迷を訴える声がかかり多い。

こうした悪影響から、倒産や廃業などの厳しい状況を訴える声が、前月以上に寄せられており、雇用の過剰感も3カ月連続で強まっている(04年2月以来の水準)。

L O B O 調 査 は、地 域 に お け る 毎 月 の 景 気 動 向 を 調 査 す る も の で あり、当 該 月 の 景 況 に 係 る 調 査 結 果 を 最 も 早 く 集 計 ・ 公 表 し て お り ま す ( 1 9 8 9 年 4 月 調 査 開 始 )。

調 査 期 間 : 2 0 0 8 年 7 月 1 7 日 ~ 2 4 日

調 査 対 象 : 全 国 の 4 0 4 商 工 会 議 所 が 2 5 8 0 業 種 組 合 な ど に ヒ ア リ ン グ

( 内 訳 ) 建 設 業 3 8 0 製 造 業 6 1 7 卸 売 業 2 3 5  
小 売 業 7 3 7 サ ー ビ ス 業 6 1 1

調 査 項 目 : 今 月 の 業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど に つ い て の 状 況 ( D I 値 を 集 計 ) お よ び 業 界 と し て 当 面 す る 問 題 な ど

D I 値 ( 景 況 判 断 指 数 ) に つ い て

D I 値 は、業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど の 各 項 目 に つ い て の、判 断 の 状 況 を 表 す。ゼ ロ を 基 準 と し て、プ ラ ス の 値 で 景 気 の 上 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 し、マ イ ナ ス の 値 で 景 気 の 下 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 す。し た が っ て、売 上 高 な ど の 実 数 値 の 上 昇 率 を 示 す も の で は な く、強 気 ・ 弱 気 な ど の 景 況 感 の 相 対 的 な 広 が り を 意 味 す る。

D I = ( 増 加 ・ 好 転 な ど の 回 答 割 合 ) - ( 減 少 ・ 悪 化 な ど の 回 答 割 合 )  
業 況 ・ 採 算 : ( 好 転 ) - ( 悪 化 ) 売 上 : ( 増 加 ) - ( 減 少 )

【 本 件 担 当 】 産 業 政 策 部 T E L : 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6

E - M a i l : s a n g y o @ j c c i . o r . j p

本 調 査 結 果 は 日 商 ホ ー ム ペ ー ジ ( <http://www.jccci.or.jp> ) で も ご 覧 に な れ ま す。

## 【2008年7月調査結果の概要】

### **業況D Iは6年ぶりにマイナス60台へ、仕入単価D Iは最悪の水準で推移**

7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（56.0）よりマイナス幅が4.5ポイント拡大し60.5となり、02年2月以来、6年ぶりにマイナス60台を記録した。

産業別の業況D Iは、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調（鉄鋼、機械関係の受注増加等）、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声はかなり多い。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### 【建設業】

- ・「公共事業の伸び悩みで廃業、倒産する事業所も発生」（一般工事業）
- ・「過度な価格競争により、中小建設業者を中心にコスト上昇分を価格転嫁できず、厳しい状況」（一般工事業）
- ・「公共工事の減少や仕入単価の上昇により、収益が激減」（建築工事業）

#### 【製造業】

- ・「原材料価格の相次ぐ高騰に対し、販売価格への転嫁をすぐに行うことは難しく、収益が減少」（家具製造業）
- ・「改正建築基準法の影響や公共工事の減少により、受注を確保できない状況」（製材木製品製造業）
- ・「機械加工関係は高稼働だが、原油・原材料価格の高騰により採算面では厳しい状況」（一般産業用機械製造業）

#### 【卸売業】

- ・「売上・採算の悪化に加え、取引先企業への値上げ交渉は暗礁に乗り上げるなど厳しい状況」（衣服・日用品卸売業）
- ・「漁獲量の減少や魚価の上昇など、厳しい状況が続いている」（農畜産水産物卸売業）
- ・「原油価格高騰の影響により、食品原材料、資材等の卸価格も上昇しているが、価格への転嫁は難しく、収益が減少」（農畜産水産物卸売業）

#### 【小売業】

- ・「原油価格高騰の影響により、車での来客数が減少、一方で商品輸送における物流コストは増加」（百貨店）
- ・「諸物価の高騰に加え、猛暑の影響で来客数が減少し、売上も悪化」（商店街）
- ・「夏物バーゲンは売上、来客数とも出足は好調も、期待したほどの伸びは見られず」（商店街）

#### 【サービス業】

- ・「8月から酒類の値上げが予定されており、今後は更なる採算の悪化を懸念」（一般飲食店）
- ・「家族連れやグループでの来客数が減少、夏休み・お盆休みの予約も少なく、売上は悪化の見込み」（旅館）
- ・「個人タクシーの売上は過去最悪の状態で、廃業者が増加」（他事業サービス）

全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して44.6となり、4カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は小売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

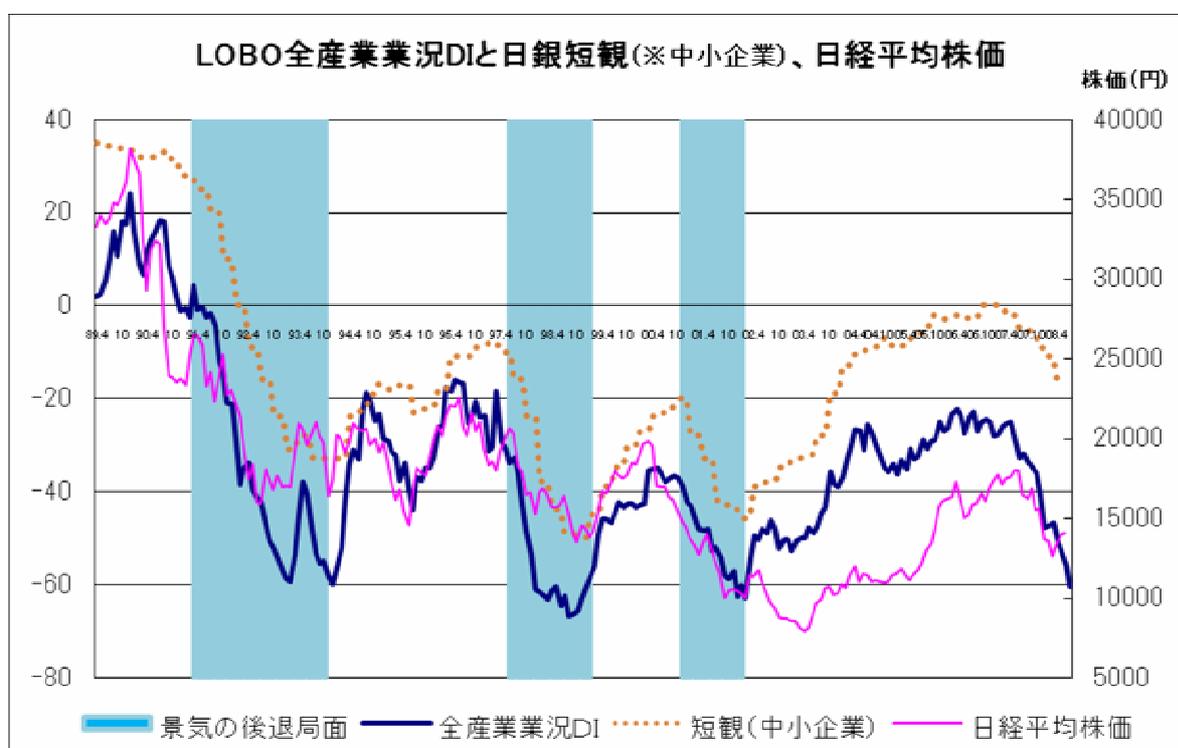
全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.9ポイント拡大して55.9となり、4カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設でほぼ横ばい、小売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

全産業合計の資金繰りD Iは、マイナス幅が5.9ポイント拡大して37.8となり、4カ月連続で悪化した。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

全産業合計の仕入単価D Iはマイナス幅が0.4ポイント縮小して59.4となり、調査開始以来最悪の先月の水準からほぼ横ばいとなった。産業別にみると、仕入単価の上昇感卸売、小売、サービスで拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは9.0と、過剰感は3カ月連続で強まった。産業別にみても、D I値はサービスで過剰感が弱まったものの、小売で過剰感に転じ、他の3業種で過剰感が強まった。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)は58.4と、昨年同時期の先行き見通し(24.0)に比べて34ポイント以上も悪化している。産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、25ポイント以上マイナス幅が拡大している。



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象

【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（56.0）よりマイナス幅が4.5ポイント拡大して60.5となり、4カ月連続で悪化し、02年2月以来、6年ぶりにマイナス60台を記録した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は小売で引き続き低水準で推移する一方、他の4業種は拡大した。中でも建設は98年7月、製造、卸売、サービスは02年2月以来の低水準。

向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が58.4と、昨年同時期の先行き見通し（24.0）に比べて34ポイント以上悪化している。

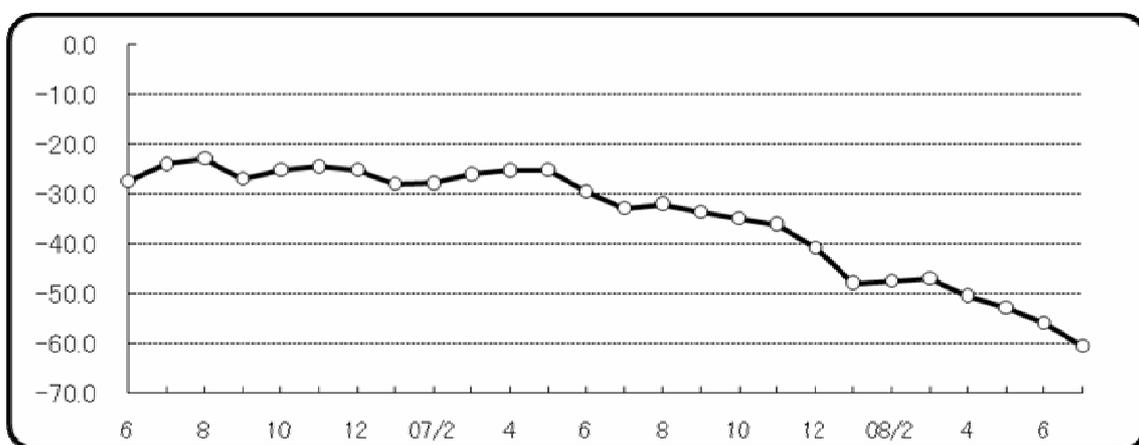
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、25ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	47.5	46.9	50.4	52.9	56.0	60.5	58.4 (24.0)
建設	57.7	59.4	64.6	65.0	67.7	73.2	66.4 (41.3)
製造	40.3	41.3	43.1	49.0	52.4	61.3	55.1 (20.7)
卸売	57.7	47.3	53.6	49.1	52.6	64.5	57.8 (26.7)
小売	49.1	48.4	52.8	52.6	57.7	54.4	58.0 (18.8)
サービス	42.7	43.3	44.4	50.6	51.2	56.8	57.5 (21.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年7月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して44.6となり、4カ月連続で悪化した（03年6月以来の低水準）。産業別にみると、D I値のマイナス幅は小売で縮小したものの、他の4業種は拡大した。中でも、建設は03年4月以来、製造は03年1月以来、サービスは03年2月以来の低水準。

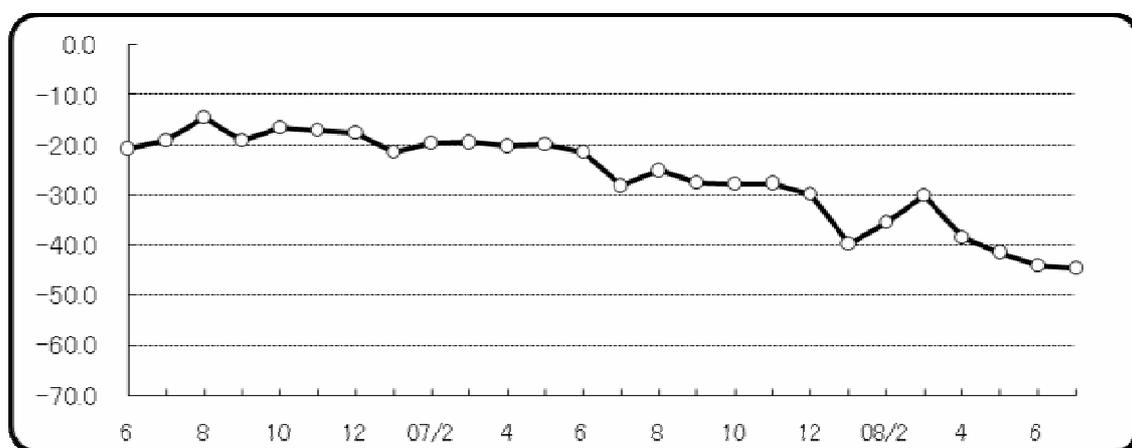
向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が44.2と、昨年同時期の先行き見通し（18.0）に比べ26ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で約20ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	35.4	30.1	38.6	41.5	44.1	44.6	44.2 (18.0)
建設	51.9	53.0	54.3	58.6	62.2	62.6	55.3 (34.9)
製造	20.3	19.5	25.5	29.9	33.0	39.7	38.7 (16.2)
卸売	47.0	29.3	42.1	33.1	39.2	42.6	37.0 (17.3)
小売	35.2	26.8	42.0	46.5	48.7	39.9	46.9 (15.8)
サービス	36.9	31.5	36.4	39.9	40.2	44.5	42.5 (12.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.9ポイント拡大して55.9となり、4カ月連続で悪化した(02年2月以来の低水準)。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設でほぼ横ばい、小売で縮小したものの、他の3業種は拡大した。中でも、サービスは98年11月以来の低水準。

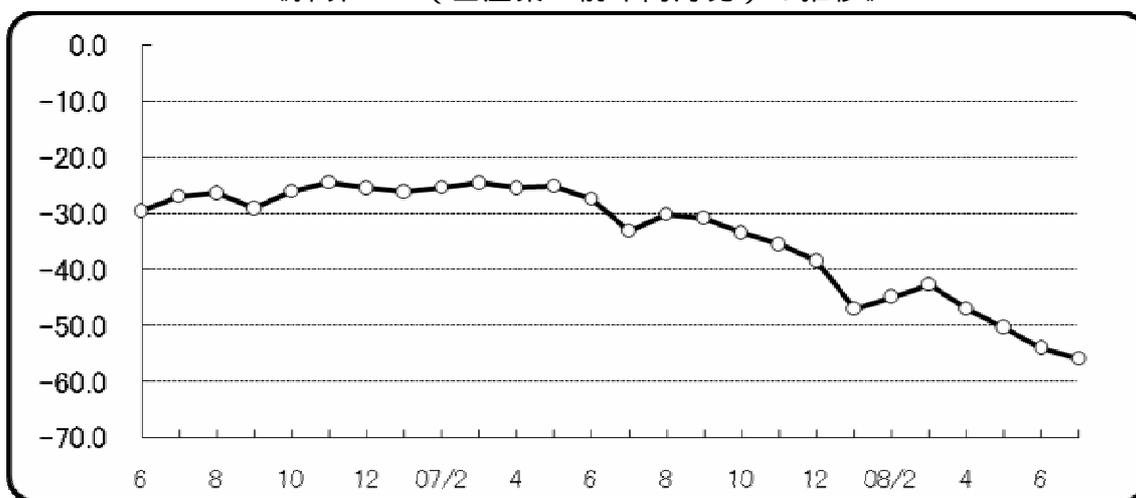
向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が52.7と、昨年同時期の先行き見通し(25.7)に比べて27ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で22ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	44.9	42.8	47.1	50.4	54.0	55.9	52.7 (25.7)
建設	57.7	62.8	61.4	63.5	70.9	70.1	64.0 (41.9)
製造	40.3	42.1	46.1	50.6	54.4	58.1	51.9 (26.7)
卸売	53.3	44.0	41.7	39.9	44.2	49.0	45.5 (21.6)
小売	40.9	34.2	42.7	46.9	48.2	46.8	49.7 (21.2)
サービス	43.2	41.1	45.9	50.0	53.0	57.9	52.8 (21.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	31.0	28.4	30.3	31.0	31.9	37.8	38.1 (21.0)
建設	48.7	46.3	43.5	47.6	46.6	52.3	50.0 (35.9)
製造	25.0	25.3	25.3	31.3	34.2	36.0	37.8 (17.6)
卸売	27.3	20.9	28.8	24.3	27.5	32.2	34.7 (18.8)
小売	30.2	25.5	30.0	24.9	26.2	31.2	31.9 (19.7)
サービス	28.9	26.9	27.7	29.4	27.5	39.9	38.9 (17.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、4カ月連続で悪化した(03年2月以来の低水準)。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	49.8	51.6	55.9	55.7	59.8	59.4	54.2 (28.0)
建設	56.3	59.2	67.2	70.1	71.5	70.4	62.3 (37.7)
製造	59.0	60.5	63.5	63.2	68.1	65.4	58.8 (41.7)
卸売	42.0	47.3	44.1	45.7	48.7	51.0	46.1 (29.0)
小売	41.7	42.7	49.0	48.2	52.6	52.8	50.7 (16.5)
サービス	48.6	49.7	53.4	51.2	56.1	57.0	51.3 (20.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは、調査開始以来最悪の水準を更新した先月からほぼ横ばいで、59.4となった。産業別にみると、仕入単価の上昇感卸売、小売、サービスで拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	4.1	3.8	3.8	6.5	7.9	9.0	9.4 ( 4.0)
建設	20.3	22.2	20.9	21.3	25.6	28.0	27.3 ( 12.6)
製造	2.2	2.0	3.8	6.2	9.1	9.8	7.9 ( 6.5)
卸売	6.0	7.4	6.6	6.7	10.4	13.5	13.7 ( 10.9)
小売	1.7	3.9	2.0	0.6	0.2	2.6	4.1 (1.7)
サービス	2.1	2.5	1.6	5.4	3.1	1.3	3.7 (0.5)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは 9.0と、過剰感は3カ月連続で強まった（04年2月以来の低水準）。産業別にみると、D I値はサービスで過剰感が弱まったものの、小売で過剰感に転じ、他の3業種で過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみても、小売、サービスで過剰感に転じ、他の3業種で過剰感が強まる見通し。

## 【2008年7月の景気キーワード】

### 更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「公共工事の減少やダンプ受注など、建設業界における将来の不安要素はしばらく続く見込み」( 蕨・一般工事業 )、「受注の減少傾向に変化が無い上、先行きの見通しにも好材料が見つからない状況」( 新潟・電気工事業 )とのコメント、製造からは、「現在の原油・原材料価格の高騰が続けば利益を確保できず、資金繰りへの悪影響も危惧」( 相模原・金属加工機械製造業 )との声が寄せられている。また、サービスからも、「個人消費の減速に伴い、今後の閉店・休業の発生を懸念」( 和歌山・旅館 )といったコメントが寄せられている。

### 仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰に伴う仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「鉄鋼・金属など資材価格は引き続き高騰しており、収益を圧迫」( 静岡・一般工事業 )、「資材価格の高騰によるコスト上昇分を工事金額に反映させたいが、そうすると受注を確保できず、厳しい状況」( 秋田・管工事業 )とのコメント、製造からは、「仕入価格が倍増、これ以上の価格高騰は死活問題」( 伊達・他の食料品製造業 )、「輸入木製材の高騰に加え、船運賃、製材加工、流通コスト等の上昇は、全ての面でマイナス影響」( 酒田・製材木製品製造業 )との声が寄せられている。また、小売からも、「仕入単価と水道光熱費等の経費が増加し、収益は減少」( 泉大津・百貨店 )といったコメントが寄せられている。

### 消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の物価上昇に対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。製造からは、「燃料・原材料価格の高騰に伴う販売価格の上昇は、消費意欲への影響が大きく、売上が悪化」( 水戸・パン・菓子製造業 )とのコメント。また、小売からは、「諸物価の上昇により、お中元商品の売上減少が顕著」( 大分・百貨店 )、「食料品価格等の高騰が消費者の購買意欲に悪影響を及ぼし、夏物バーゲンも例年の盛り上がりには欠ける」( 豊橋・商店街 )とのコメント、サービスからは、「ガソリン価格の高騰に伴い、外食を控える傾向が強まり売上が悪化」( 伊達・食堂・レストラン )、「例年、7月は大幅に売上が上昇するが、今年は厳しい状況」( 松戸・美容 )といったコメントが寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 5月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
6月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
7月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大、採算D Iはほぼ横ばいとなった。「公共・民間工事ともに受注が大幅に減少し、収益が悪化」、「経営内容の悪化による取引金融機関の支援打ち切りで、倒産が増加」(ともに一般工事業)「受注工事の減少と燃料代等の高騰に加え、競争の激化により採算が悪化」(土木工事業)「見積後に原材料価格が高騰する場合が多く、利益を確保できない状況」(建築工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは5カ月連続、売上D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「改正建築基準法の影響は和らいできたとは言えず、需要低迷が長期化」(製材木製品製造業)「マンション物件の受注競争が激しく、原材料高にも関わらず値下げをしてくる競合他社が多いため、利益の確保が難しい状況」(建設建築用金属製造業)「原油・原材料高の影響で、収益が確保できない状況。受注も減少し、従業員を解雇する事業所も発生」(金属加工機械製造業)といった声が寄せられている。一方、「鉄鋼向けの出荷は好調を維持」(他の窯業・土石製造業)とのコメントも寄せられている。
卸 売	業況D I、売上D I、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原油・原材料価格の上昇が、物流コスト面に悪影響」、「仕入価格上昇分の販売価格への転嫁は難しく、採算が悪化」(ともに各種商品卸売業)「これまで以上の消費の冷え込みに、更なる売上の減少を懸念」(農畜産水産物卸売業)「8月中旬に資材価格の値上げが予定されていることから、今月は駆け込み受注により売上が増加したものの、9、10月の売上は大幅に減少する見込み」(建築材料卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D I、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「猛暑の影響から、衣類やエアコン等の家電品の売上は好調だが、例年に比べ購入単価は減少」(百貨店)「仕入価格の高騰に対し、競争激化の影響により販売価格への転嫁は難しく、採算が悪化」(その他の小売業)「生活必需品以外は、売上・来客数ともに激減」(商店街)といった声が寄せられている。一方、「低価格での販売展開が可能なプライベート・ブランドの商品は好調」(百貨店)とのコメントも寄せられている。
サービス	業況D Iは5カ月連続、売上D I、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原油・原材料価格の高騰に伴う食材・包装用品の上昇により、採算が悪化」(すし店)「例年、梅雨明け後は売上が増加するが、諸物価高騰の影響から、今年は来客数が伸び悩み」(喫茶店)「調理材料の値上げが今後も続く見込みである一方、価格転嫁を行うと来客数の減少が見込まれ、厳しい状況」、「岩手・宮城内陸地震による風評被害のため、新規の宿泊予約が入らず、厳しい状況」(ともに旅館)「受注は順調だが、諸経費の上昇により採算面は悪化」(ソフトウェア業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越では低水準で推移する一方、東海、九州でほぼ横ばい、他の6ブロックは悪化した。

なお、悪化幅が大きい四国ブロックにおいては、製造業、小売業の業況悪化が顕著であったが、これは、原材料価格の高騰による地場産業(造船業、麺類製造等)の採算面への影響や、消費意欲の低下がより顕著に表れたものとみられる。

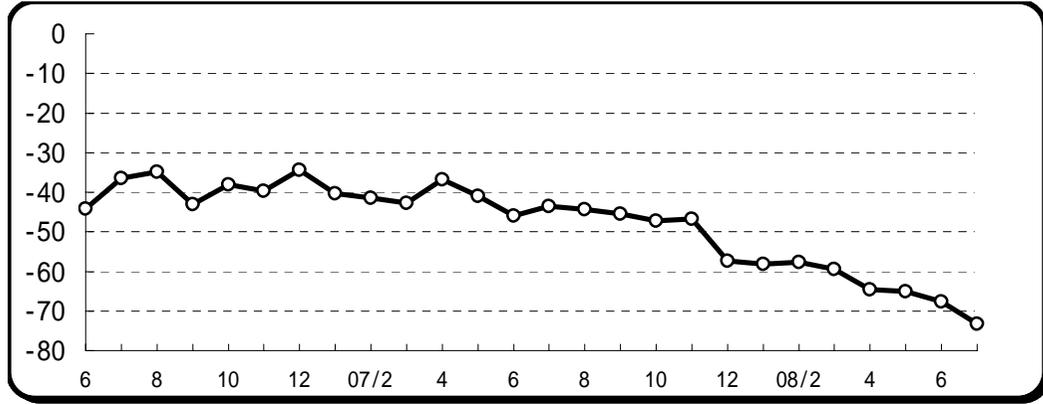
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

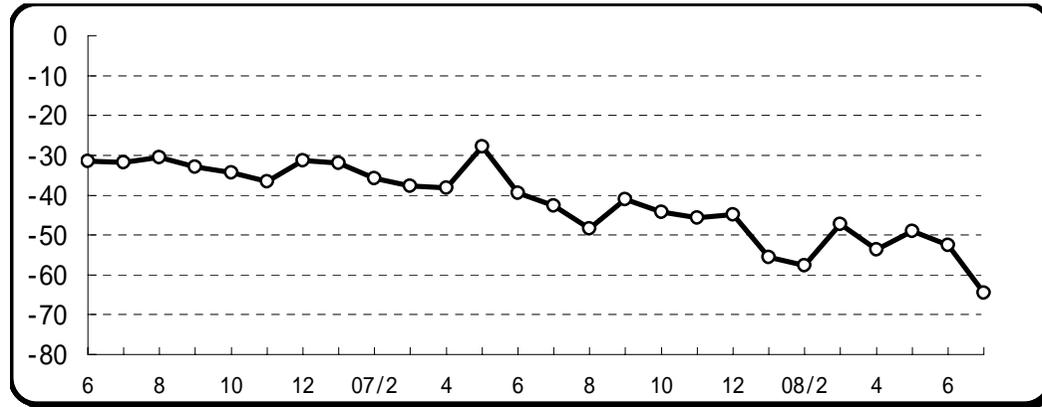
	08年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	47.5	46.9	50.4	52.9	56.0	60.5	58.4 ( 24.0)
北 海 道	49.5	52.5	55.0	56.7	56.2	64.1	60.7 ( 26.7)
東 北	48.6	53.0	54.3	51.3	59.7	65.7	57.5 ( 34.0)
北陸信越	50.0	41.9	47.6	52.4	55.4	54.1	53.8 ( 22.7)
関 東	43.2	44.1	46.5	51.2	56.0	61.9	58.6 ( 20.9)
東 海	48.7	42.6	45.8	47.8	56.7	56.0	59.2 ( 23.1)
近 畿	53.4	54.1	49.6	55.2	57.9	64.3	58.7 ( 27.1)
中 国	53.0	50.4	62.0	57.1	56.2	59.2	59.2 ( 27.7)
四 国	40.6	44.4	50.4	54.2	50.4	62.4	64.7 ( 25.2)
九 州	45.6	43.3	53.1	53.5	55.2	55.0	55.0 ( 14.9)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

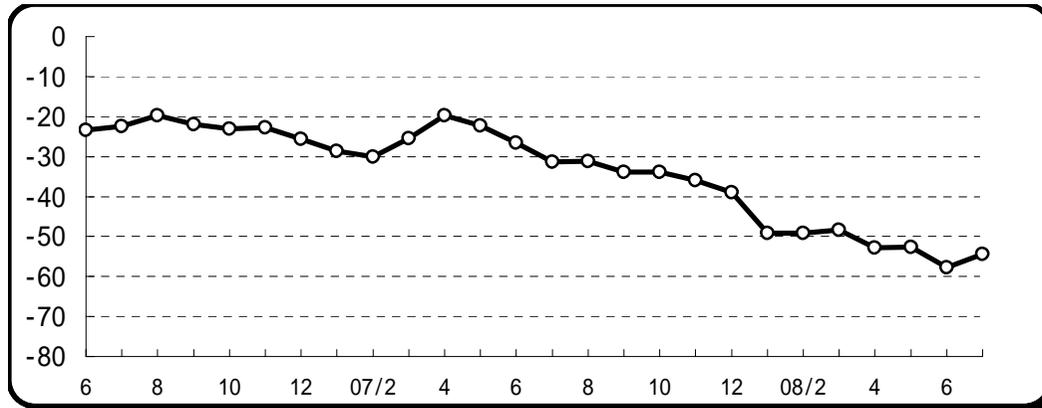
## 建設業



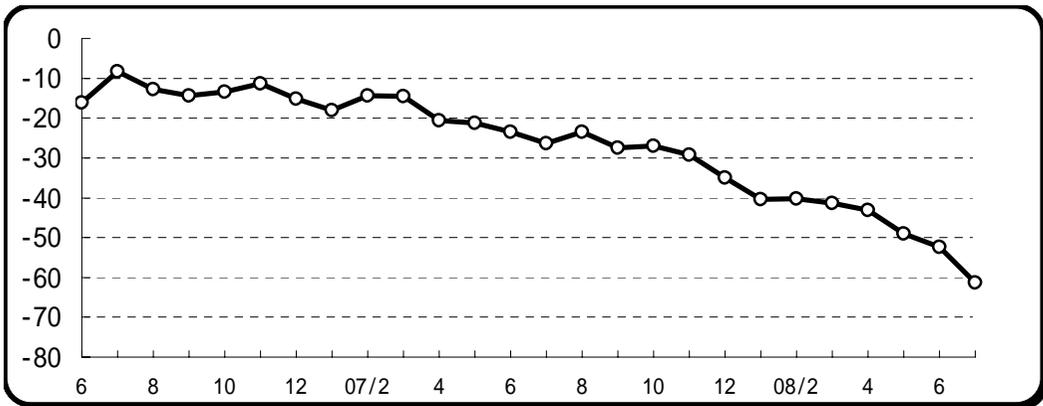
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

